「ものづくり教室」開く

小学生の自由研究支援

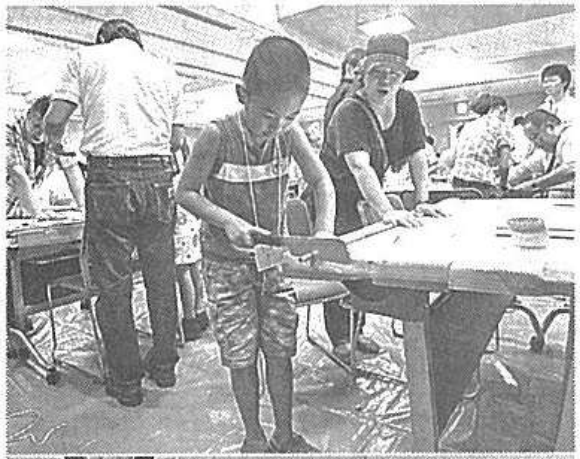
日本技術士会中国本部青年技術士交流委

（公社）日本技術士会中国本部（近藤英樹本部長）の青年技術士交流委員会は25日、広島市中区袋町の広島市まちづくり市民交流プラザで、小学生の親子を対象とした防災のための〝ものづくり教室〟を開いた。イベントは、同委員会が子供たちの夏休みの自由研究を支援しようと社会貢献活動の一環として行っているもの。親子連れ約30人が参加し、科学技術への興味を深めていた。

ものづくり教室では、はじめに防災に関する講義を行い、津波浸水想定地図を示しながら、防災の重要性を説明。その後、3つのグループに分かれ、災害時に役立つものとして、『竹笛』『ダンボールイス』『アルファー化米』を作った。

竹笛づくりでは、バネの模型を使って音の出る仕組みを勉強した後、鋸や小刀を使って竹笛を作り上げた。子供たちは「笛は買わなくても自然の物で作れることがわかった」と喜んでいた。ダンボールイスづくりでは、トラス構造によるダンボールの強さの秘訣を学んだ後、ダンボールで折りたたみイスや台形イスなどを作成。子供たちは大人が乗ってもビクともしないイスに驚きの声を上げていた。アルファー化米づくりでは、保存食がなぜ腐らないかを勉強した後、ドライヤーで乾燥させてアルファー化米を作った。アルファー化米をお湯で戻して食べてみた子供は、意外においしいことに驚き、「もしもの時に、保存食が役立つことがわかった」と笑顔だった。

同委員会の高木周一委員長は「子供たちが作った3つの物は、どれも科学の力を応用してあるということがわかってもらえたと思う。ものづくり教室をきっかけに、少しでも子供たちが、科学に興味を持ってくれれば嬉しい」と話していた。



竹笛づくり㊤アルファー化米づくり㊦のようす